

2012年度決算説明会

2013年5月10日

新日鐵住金株式会社

代表取締役副社長

太田 克彦

1. 2012年度決算実績

2. ご参考

1. 2012年度決算実績

2012年度下期決算実績の概況

需給環境 (12年度下期)

- 国内鋼材需要:造船・自動車分野等の製造業向け需要は減少(対上期▲4%減)。
建築・土木向けは増加(対上期+10%)。
- 国際市況は年明け以降緩やかに上昇後、足元再び軟化基調。
- 鋼材輸出:中国・韓国向け減少、ASEAN諸国向け等堅調。鋼材輸入:依然として高水準ながら、減少傾向。

当社の取組み

- 国内製造業向け中心に出荷減。輸出は増加。(上期→下期:出荷-24万トﾝ減[対前回見通し+7万トﾝ増])。
- 計画を上回るコスト改善を達成し、従来のコスト改善は下期320億円。
- 統合効果/下期100億円も計画通り達成。13年度以降も、統合効果の早期実現を目指す。

決算概況

- 下期経常損益573億円(両社単純合算ベース/対前回見通し[2/14発表]+173億円、対上期+270億円)
- 下期特別利益440億円:
 - 資産圧縮策としての保有株式売却による投資有価証券売却益187億円
 - 昨年12月末にかけての株式市場回復等による投資有価証券評価損の戻入246億円等
- 下期当期利益520億円。剰余金の期末配当方針:1円/株(下期連結配当性向17.4%)

2012年度決算実績

(単位:億円)	新日鐵住金							差異		前回
	うち 新日鐵	FY12 上期 [A]	FY12		FY12 下期 [B]	年度 実績 ^{*1} [A+B]	年度 実績 (存続会社 ベース)	上期 (合算) → 下期	%	年度 見通し ^{*1} [2/14]
			3Q	4Q						
売上高	19,182	26,118	11,544	13,172	24,716	50,835	43,899	-1,402	-5%	50,000
営業損益	-26	131	-33	260	227	358	201	+96	+73%	
経常損益	195	303	125	448	573	877	769	+270	+89%	700
製鉄	54	148	37	324	360	509	415	+212	+143%	350
鉄以外セグメント	176	176	123	106	229	406	406	+53	+30%	375
調整額	-35	-21	-35	18	-16	-37	-52	+5	-	-25
特別損益	-2,579	-4,035	289	150	440	-3,595	-2,139	+4,475	-	
当期損益	-1,766	-3,104	247	273	520	-2,584	-1,245	+3,624	-	
(一株当り当期損益)	(-28.1)		(2.7)	(3.0)	(5.7)					
有利子負債残高	13,821	26,460	25,964				25,430	-1,030	-4%	
D/E レシオ	0.85		1.20				1.06			

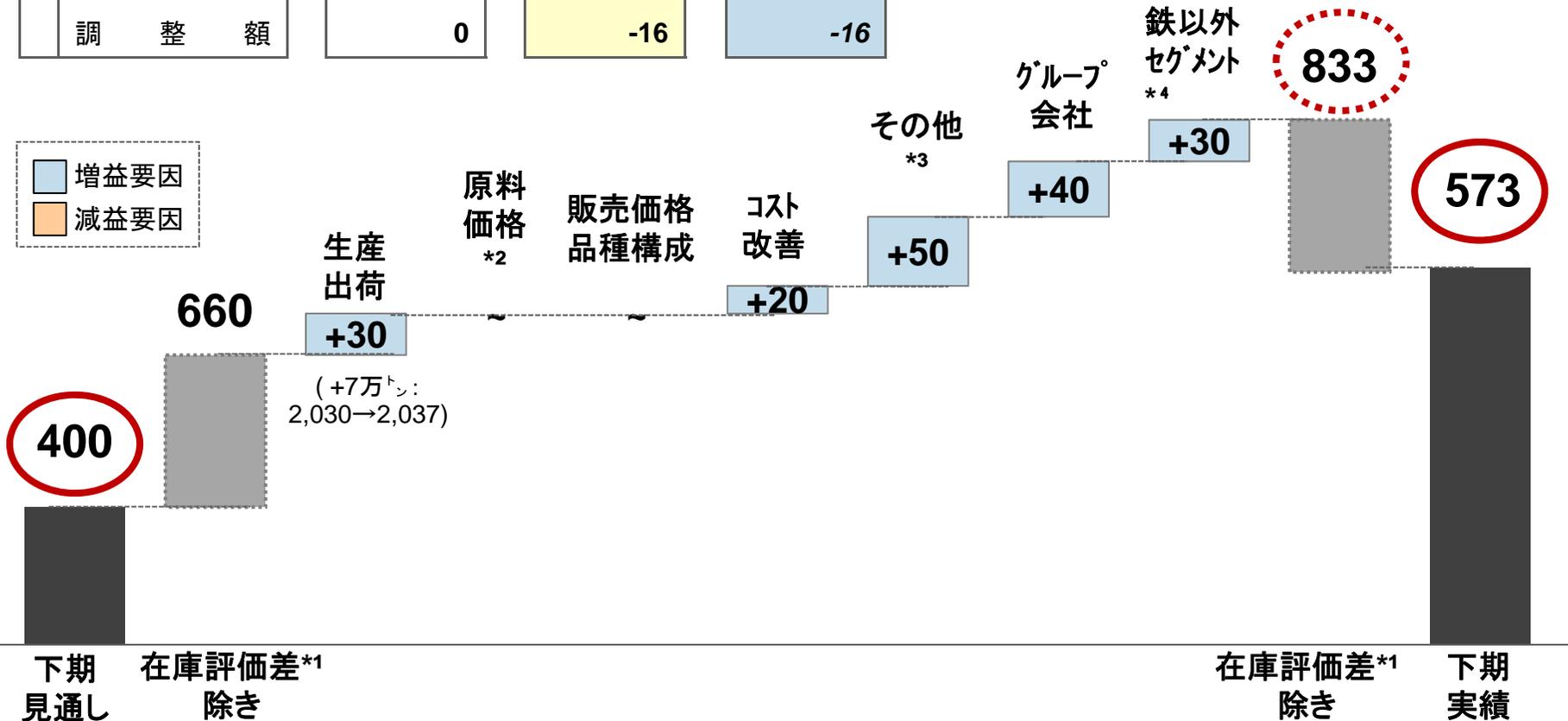
*1 上期 旧両社合算ベース

© 2013 NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL CORPORATION All Rights Reserved.

連結経常損益分析(12/下期見通し→12/下期実績)

(単位:億円)	下期見通し (前回2/14) [A]	下期実績 [B]	増減 [A→B]
経常損益	400	573	+173
製鉄	200	360	+160
鉄以外セグメント	200	229	+29
調整額	0	-16	-16

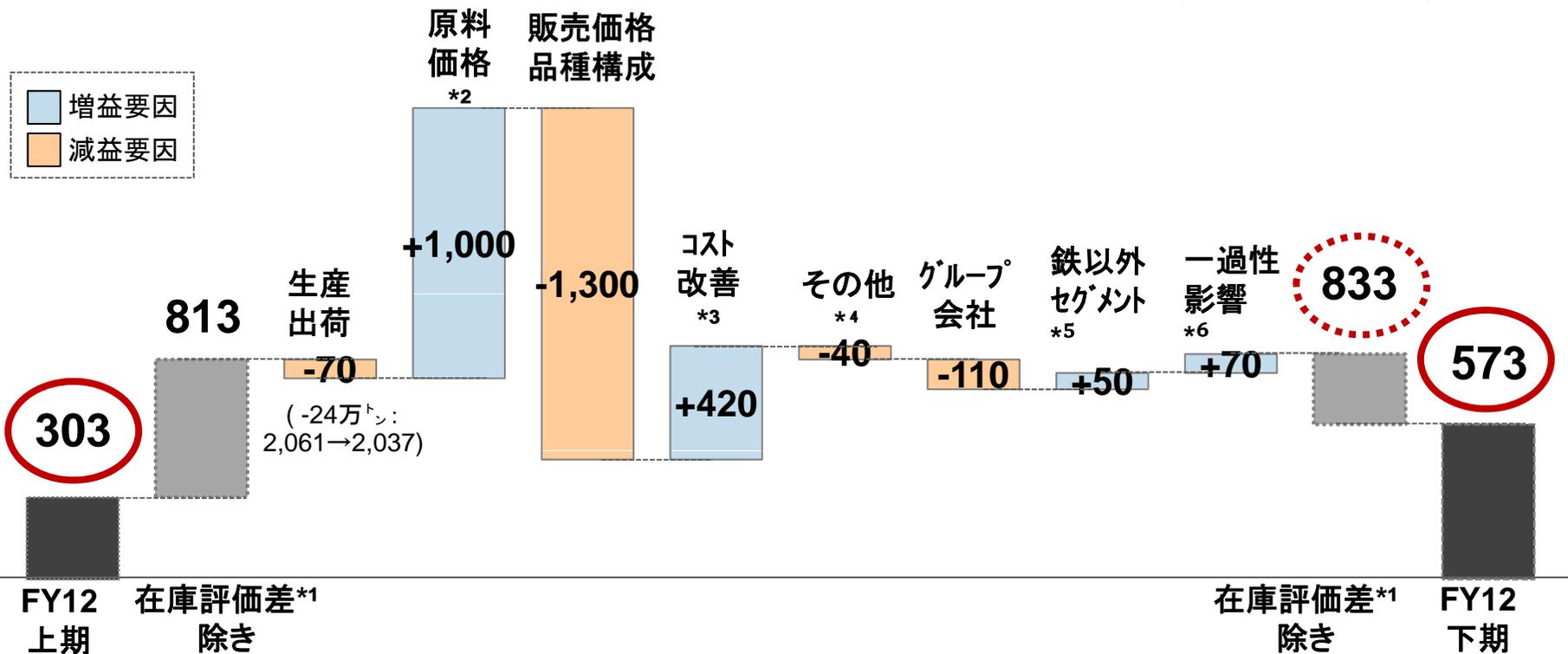
- *1 在庫評価差
下見/-260 → 下実/-260
- *2 キャリーオーバー影響含む
- *3 調整額-16含む
- *4 エンジニアリング+17, 化学+16,
システムソリューション-11, 新素材+5



連結経常損益分析(12/上期(旧両社単純合算)→12/下期)

(単位:億円)	上期 (単純合算) [A]	下期 [B]	増減 [A→B]
経常損益	303	573	+270
製鉄	148	360	+212
鉄以外セグメント	176	229	+53
調整額	-21	-16	+5

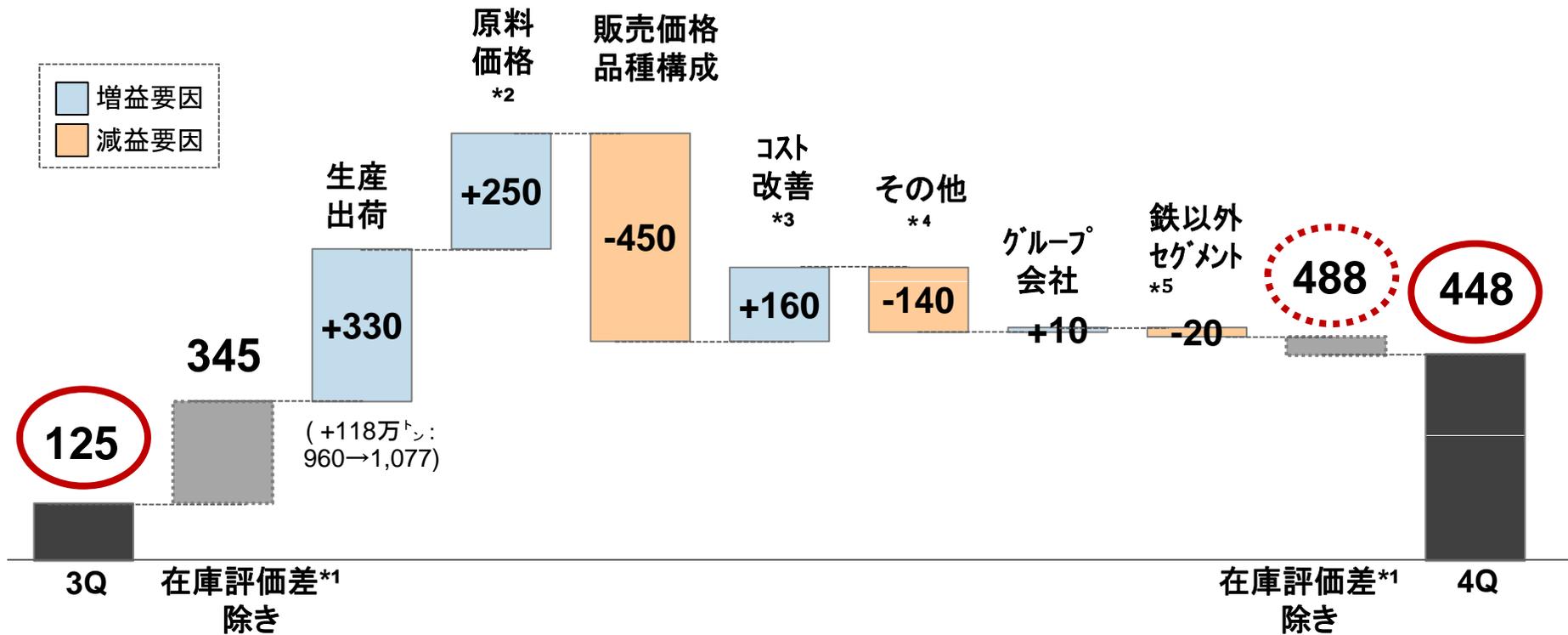
- *1 在庫評価差
'12上/-510 → '12下/-260
- *2 キャリーオーバー影響含む
- *3 ウチ、統合効果+100
- *4 調整額+5含む
- *5 エンジニアリング+24, 化学+26,
システムソリューション+2, 新素材+1
- *6 君津第2高炉改修コスト影響 +70
('12上 -70 → '12下 0)



連結経常損益分析(3Q→4Q)

(単位:億円)	3Q [A]	4Q [B]	増減 [A→B]
経常損益	125	448	+323
製鉄	37	324	+287
鉄以外セグメント	123	106	-17
調整額	-35	18	+53

- *1 在庫評価差
3Q/-220 → 4Q/-40
- *2 キャリーオーバー影響含む
- *3 ウチ、統合効果+60
- *4 調整額+53含む
- *5 エンジニアリング+18, 化学 -43,
システムソリューション+13, 新素材-3



特別損益内訳

下期：特別利益 440億円

- ・資産圧縮対策としての保有株式売却を進めたことによる投資有価証券売却益 187億円
- ・昨年12月末にかけて株式市場回復に伴う投資有価証券評価損の戻入 246億円、等

Cf) 上期：特別損失 -2,579億円(広畑・堺製鉄所の事業用資産の減損等により、-1,392億円の減損損失計上。旧新日鉄保有の住金株式の売却等により、-940億円の投資有価証券売却損計上、他)。

(単位:億円)	FY12(存続会社ベース)			FY12 (単純合算)
		上期	下期	
特別損益計	-2,139	-2,579	440	-3,595
特別利益	50	-	50	50
事業再編益	50	-	50	50
特別損失	-2,189	-2,579	390	-3,645
減損損失	-1,328	-1,392	64	-2,548
投資有価証券売却損	-753	-940	187	-753
投資有価証券評価損	-	-246	246	-236
事業整理損	-108	-	-108	-108

製鉄以外セグメント概況(12年度実績)

(単位:億円)

<前回2/14時点見通し>

FY12 (対前年同期)	売上高		概況	売上高	
	経損	常益		経損	常益
 Leading with Determination NIPPON STEEL & SUMIKIN ENGINEERING エンジニアリング	3,030	181	受注増*1により増収。継続的なコスト改善努力とリスク管理の徹底により、対前年増益。	3,000	165
 NIPPON STEEL & SUMIKIN CHEMICAL 化 学	1,957	97	円安による輸出採算の改善・ベンゼン市況上昇によるマージン回復はあるものの、コールケミカル・機能材料の販売数量の伸び悩みや大規模修繕の影響もあり、減収減益。	1,850	80
 NIPPON STEEL & SUMIKIN MATERIALS CO., LTD. 新 素 材	422	9	金ワイヤの銅化の影響により減収。経常損益は、世界景気の低迷、円高等の影響を受けるも、銅ワイヤ需要増等により増益。	400	5
 NS Solutions システムソリューション	1,719	116	業務ソリューション(産業・流通、公共分野)、ビジネスサービス(鉄鋼・テレコム分野)を中心に、対前年増収増益。	1,700	125
製鉄以外 セグメント 外計	7,129	406		6,950	375

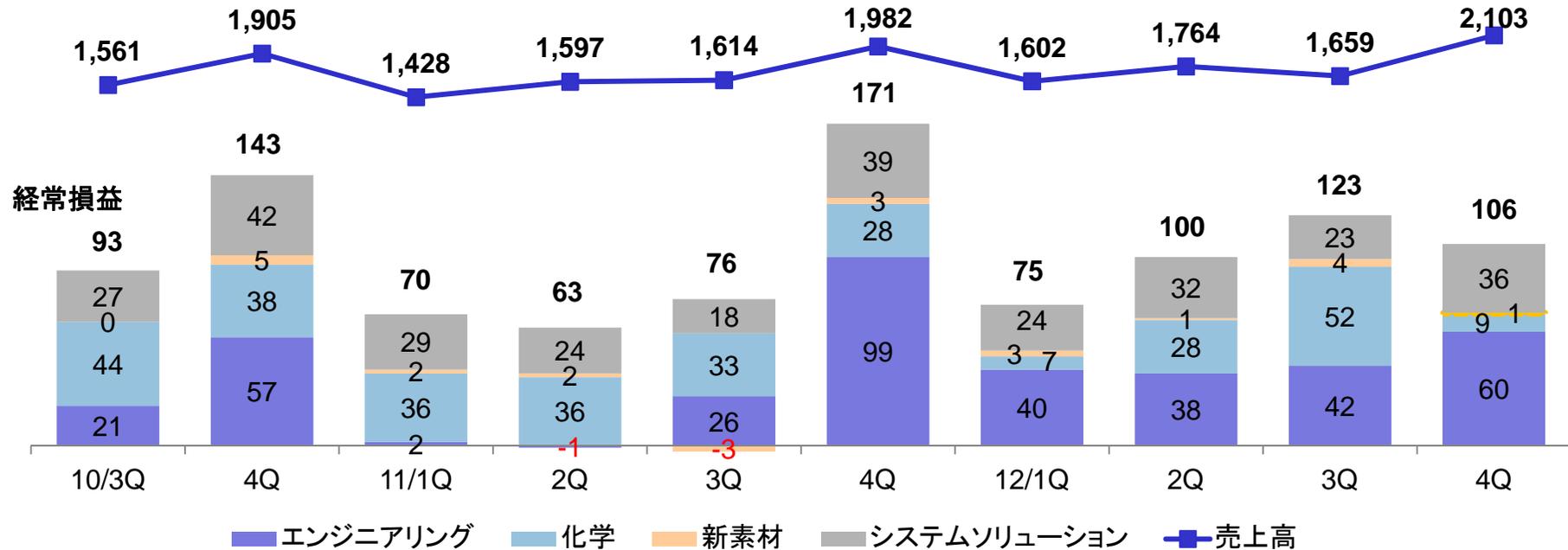
*1 参考) エンジニアリング事業環境

(億円)	FY11	FY12
受注高	2,400	2,700
受注残	3,000	3,000

(ご参考) 製鉄以外セグメント別経常利益 四半期別推移

(単位:億円)	10/3Q	4Q	11/1Q	2Q	3Q	4Q	12/1Q	2Q	3Q	4Q
エンジニアリング	21	57	2	-1	26	99	40	38	42	60
化学	44	38	36	36	33	28	7	28	52	9
新素材	0	5	2	2	-3	3	3	1	4	1
システムソリューション	27	42	29	24	18	39	24	32	23	36
製鉄以外セグメント計	93	143	70	63	76	171	75	100	123	106

売上高(4セグメント計)



連結貸借対照表 (2012/3月末→2013/3月末)

2013年3月末BS : 総資産70,894億円、D/E 1.06

(単位:億円)	FY11			FY12		増減	
	NSC	SMI	(単純合算) 3E	12E	3E	Y o Y	%

【資産の部】

流動資産	17,035	6,580	23,615	20,943	21,107	-2,508	-11%
固定資産	32,212	17,280	49,492	47,208	49,787	+295	+1%
資産計	49,247	23,861	73,108	68,151	70,894	-2,214	-3%

【負債及び純資産の部】

流動負債	13,362	6,910	20,272	19,077	19,811	-461	-2%
固定負債	12,411	9,336	21,747	22,110	21,700	-47	-0%
負債計	25,773	16,246	42,020	41,187	41,512	-508	-1%
純資産	23,473	7,614	31,088	26,963	29,382	-1,706	-5%
自己資本	18,289	7,093		21,648	23,940		

有利子負債残高	13,345	11,721 ^{*1}	25,066	25,964	25,430	+364	+1%
D/Eレシオ	0.73	1.65		1.20	1.06		

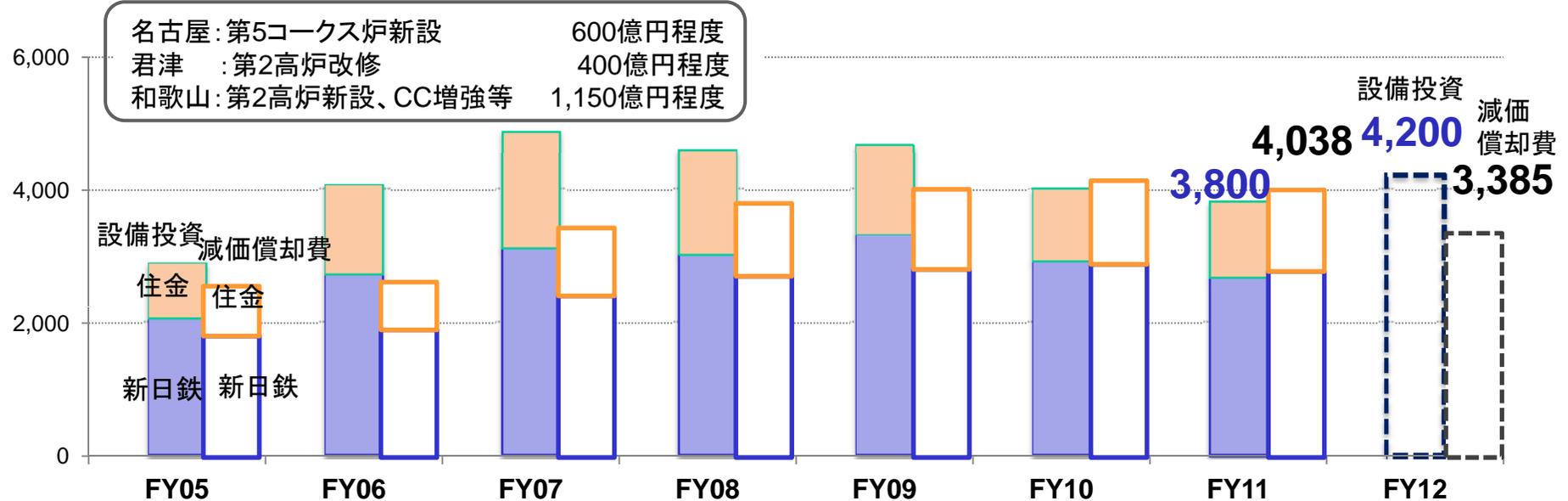
*1 住金の2012年3月末は借入残高を記載。

設備投資・減価償却費

(単位: 億円、連結ベース)

新日鐵住金 (上段:新日鉄 下段:住金)	FY05	FY06	FY07	FY08	FY09	FY10	FY11	FY12
設備投資額 <工事ベース>	2,850 (2,050) (826)	4,050 (2,700) (1,358)	4,900 (3,100) (1,788)	4,600 (3,000) (1,591)	4,650 (3,300) (1,366)	4,000 (2,900) (1,099)	3,800 (2,650) (1,157)	4,200
減価償却費	2,585 (1,833) (752)	2,647 (1,925) (722)	3,465 (2,440) (1,025)	3,835 (2,737) (1,098)	4,048 (2,840) (1,208)	4,177 (2,915) (1,262)	4,038 (2,809) (1,229)	3,385

2012年度の主な新規設備投資案件



※ 設備投資額: 2005~2011年度の新日鐵住金は、旧新日鉄と旧住金の合算値を50億円単位で丸めて表示

剰余金の期末配当方針について

当期末の剰余金の配当につきましては、減損損失の計上等もあり、通期の連結当期純利益は赤字であるものの、統合新会社発足後の下期の業績（下期連結当期純利益520億円）及び先行きの経営環境等を勘案し、1株につき1円（下期連結配当性向17.4%）とすることを定時株主総会に御提案させていただき予定しております。

< 利益配分に関する基本方針 >

当社は、業績に応じた利益の配分を基本として、企業価値向上に向けた投資等に必要な資金所要、先行きの業績見通し、連結及び単独の財務体質等を勘案しつつ、第2四半期末及び期末の剰余金の配当を実施する方針と致しております。

「業績に応じた利益の配分」の指標としては、連結配当性向年間20%程度を基準としております。

2013年度決算見通しについて

2013年度決算見通し(単独・連結)については、主原料価格及び鋼材価格ともに交渉が未決着であること等から、現時点では当社として合理的な算定・予想を行うことができません。

従いまして、2013年度の業績予想については未定とし、合理的な算定が可能となった時点で速やかに開示致します。

トピックス

主要な海外事業投資の進捗

		%: NSSMC出資比率	投資額	主要設備	製造能力	FY12	FY13	FY14	FY15
事業投資	自動車用鋼板	 TENIGAL (メキシコ) 49%	約300百万\$	CGL	40万 トン/年		★ '13/7		
		 JCAPCPL(TATAとのJV) (インド) 49%	約400億円	CAPL	60万 トン/年		★ '14/1		
		 NSGT (タイ) 100%	約300百万\$	CGL	36万 トン/年		★ '13/10		
	建材薄板	NSBS (BlueScopeとのJV) (シンガポール他) 50%	554百万\$ (グループ総額)	CGL等	140万 トン/年-CGL	★	'13/3 JV設立		
		 CSVC (ベトナム) 30%	1,150億円 (JV合計額)	CDCM	120万 トン/年	★	'13/4		
	ブリキ	 WINSteel (中国) 50%	約230億円	ブリクラ イン等	80万 トン/年		★ '13/9~12 順次稼働		
	鋼管	 NS Pipe Mexico (メキシコ) 55%	約39百万\$	電縫鋼管 造管等	2.4万 トン/年		★ '13/6		
		 VSB (ブラジル) 40%	5.4bnBRL (VSB資本金)	シームレス パイプ等	60万 トン/年-SML		立ち上げ中		
		 Southern Tube (米国) (OCTG加工) 100%	43百万\$	油井管 熱処理等	7万 トン/年				★ FY15本格商業生産

※ 尚、インドネシアにおいて、自動車用鋼板製造・販売事業の実施検討を開始

グループ会社の事業統合

統合再編によるシナジー効果の早期発揮に努めていきます。

	リリース日	発足(予定)日
■ 電縫管事業の統合 ・ 住友鋼管(株)の完全子会社化 ・ 住友鋼管(株)と日鉄鋼管(株)の合併	2013/04/26	2013/08/01 2013/10/01
■ 商社事業の統合 – 合併契約締結 (住金物産(株)と日鐵商事(株)の経営統合に向けた検討開始)	2013/04/26 (2012/02/07)	2013/10/01
■ 総合エンジニアリング事業の統合 – 合併契約締結 (太平工業(株)と(株)日鉄エレックス、統合基本契約締結)	2013/05/08 (2012/09/28)	2013/10/01
< 前回決算発表(2/14)時点で既公表の事業統合 >		
■ 厚板溶断加工事業の統合	2013/01/18	2013/04/01
■ 高張力ボルト事業の統合	2012/11/29	2013/01/04
■ 試験分析子会社の統合	2012/10/03	2013/04/01
■ タイにおける棒線二次加工事業会社の統合	2012/10/02	2013/01
■ 物流子会社の統合	2012/09/05	2013/04/01
■ パイプライン子会社の統合	2012/06/26	2012/10/01

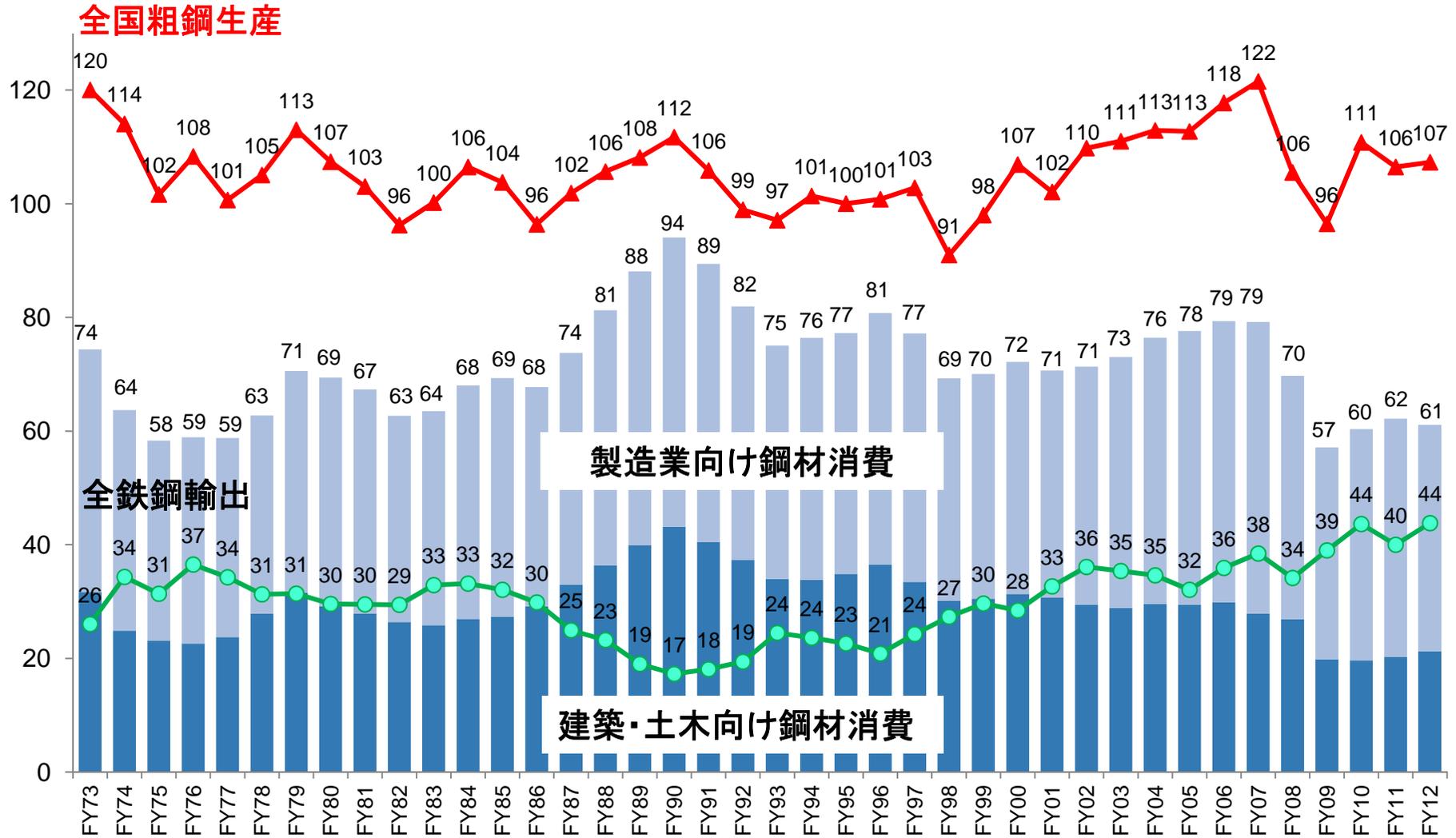
2. ご参考

1) 主要参考情報

国内鋼材消費推移

(百万ト)

■ 製造業向け ■ 建築・土木向け ▲ 粗鋼生産 ● 全鉄鋼輸出



(出所: 日本鉄鋼連盟)

主要需要分野の活動水準推移

		FY11	FY12					FY13	差異		
			1Q	上期	3Q	4Q	下期		^{*2} 1Q 見通し	FY11 → FY12	前4Q → 1Q見
建設	住宅着工戸数 (万戸)	84	22	44	24	21	45	89	23	+5	+2
	非住宅着工 (万㎡)	4,752	1,257	2,593	1,319	1,291	2,611	5,203	1,320	+451	+29
	公共工事受注*1 (10億円)	6,206	975	3,020	1,812	2,224 ^{*2}	4,036	7,056	1,528	+850	-696
自動車	完成車生産台数 (万台)	927	247	491	226	239	465	955	228	+29	-11
	完成車輸出台数 (万台)	462	122	237	117	113	229	466	125	+4	+13
	海外生産(8社) (万台)	1,335	395	761	366	405	771	1,533		+198	
産業機械	大中型ショベル (千台)	78	20	38	17	15 ^{*2}	33	71	19	-7	+4
	金属工作機械 (千ト)	454	103	214	96	83 ^{*2}	179	393	89	-61	+6
造船	新造船起工 (当社推定) (万グロスト)	1,715	360	705	330	315	645	1,350	280	-365	-35

リグカウムの状況	CY07平均	CY08平均	CY09平均	CY10平均	CY11平均	CY12平均	直近
米国	1,768	1,879	1,089	1,546	1,875	1,919	1,764 (13/5/3)
深井戸(≧15,000ft)	222	283	249	249	395	324	339 (13/2)
北米・露・中を除く世界	1,005	1,079	997	1,094	1,167	1,234	1,268 (13/3)

(出所:各種統計資料・当社推定) *1 建設工事受注動態統計の公共工事受注額 *2 5/9時点見込み値

主要需要分野の鋼材消費推移

(単位:万ト)	FY11	FY12 ^{*1}					FY13	差異		
		1Q	上期	3Q	4Q	下期		1Q ^{*1} 見通し	FY11 → FY12	前4Q → 1Q見
全国粗鋼生産量	10,646	2,750	5,476	2,591	2,663	5,254	10,730	2,758	+84	+95
国内鋼材消費	6,217	1,529	3,058	1,537	1,530	3,067	6,125	1,509	-93	-21
製造業比率 (%)	67.4	67.4	66.2	62.8	63.3	63.0	64.6	64.2	-2.8	+0.8
普通鋼鋼材消費	4,941	1,213	2,433	1,229	1,220	2,449	4,881	1,194	-60	-26
建設	1,918	471	976	541	532	1,073	2,049	512	+131	-20
製造業	3,023	742	1,457	689	687	1,376	2,832	682	-191	-5
ウチ、造船	556	116	227	106	99	205	432	91	-124	-8
ウチ、自動車	1,131	303	589	274	289	563	1,152	283	+21	-6
ウチ、産業機械	506	122	240	114	108	223	463	115	-44	+6
ウチ、電機機械	318	78	154	69	70	139	292	74	-25	+4
特殊鋼鋼材消費	1,276	316	626	307	310	618	1,243	315	-33	+5
鋼材輸入	624	146	295	165	132	296	592		-33	
鋼材輸出	3,646	993	1,992	941	1,027	1,968	3,960		+314	

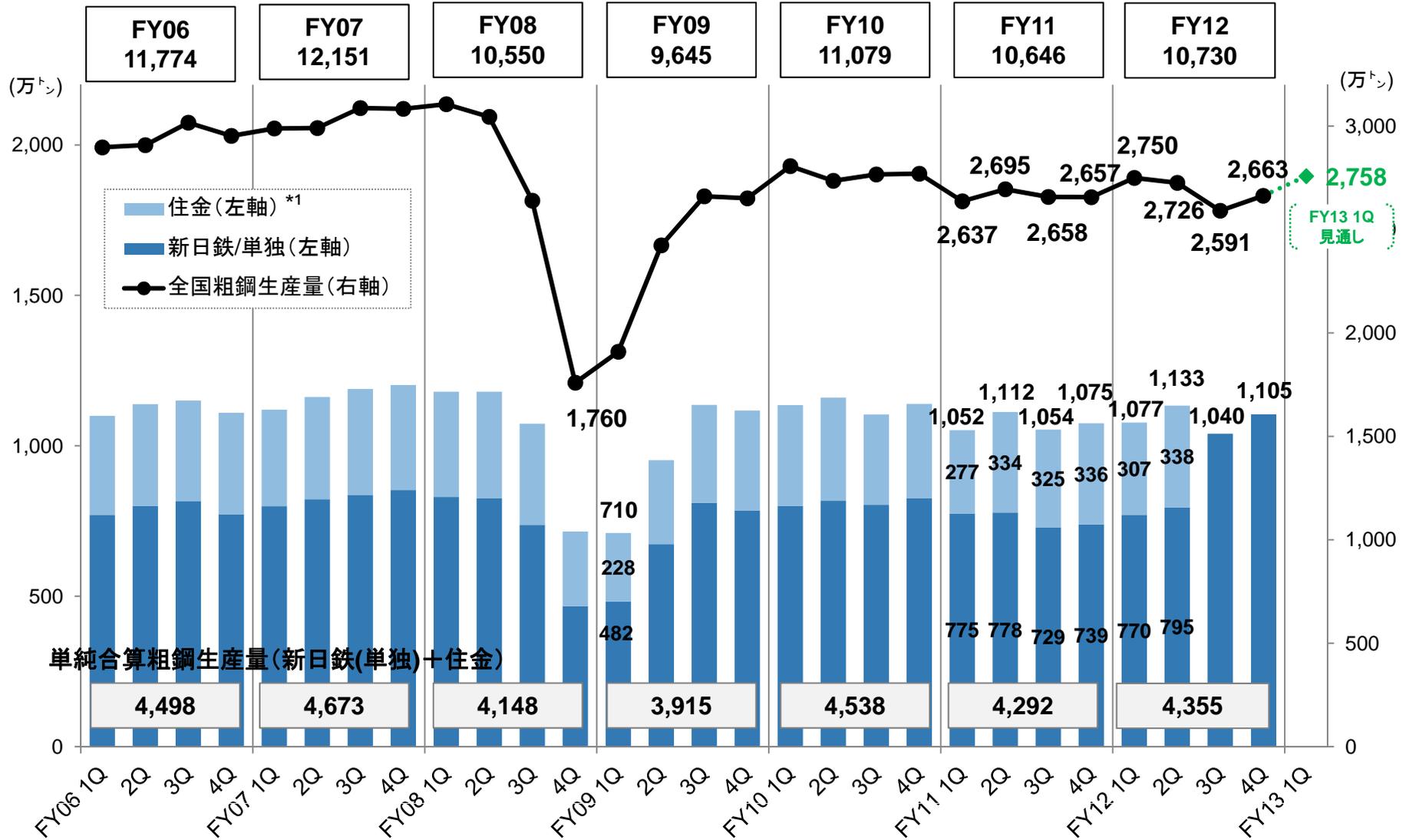
(出所:各種統計資料・当社推定) ^{*1} 5/9時点見込み値

© 2013 NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL CORPORATION All Rights Reserved.

粗鋼生産量 四半期別推移

全国粗鋼生産量

(2013/5/8 FY13 1Q鉄鋼生産計画集計結果 経済産業省発表)



*1 住金の数値は、旧住金小倉・住金直江津・住金鋼鉄和歌山含み

製鉄事業諸元一^{*1} ①

(単位:万ト)	FY11					FY12					差異	
	上期	3Q	4Q	下期		上期	3Q	4Q	下期		12上 → 12下	FY11 → FY12
出銑量 ^{*2}	2,180	1,084	1,070	2,154	4,333	2,213	1,062	1,114	2,176	4,390	-37	+57
新日鉄	1,579	757	741	1,498	3,077	1,579						
住金	601	327	329	656	1,256	634						
粗鋼生産量(連結)	2,281	1,116	1,140	2,256	4,537	2,334	1,101	1,169	2,270	4,603	-64	+66
新日鉄	1,661	785	798	1,583	3,244	1,681						
住金	620	331	342	673	1,293	653						
粗鋼生産量(単独)	2,164	1,054	1,075	2,128	4,292	2,210	1,040	1,105	2,145	4,355	-66	+63
新日鉄	1,553	729	739	1,467	3,020	1,566						
住金	611	325	336	661	1,272	644						
鋼材出荷量	1,980	1,019	1,035	2,053	4,033	2,061	960	1,077	2,037	4,097	-24	+64
新日鉄	1,468	720	721	1,441	2,909	1,497						
住金	512	299	314	612	1,124	564						

(参考)

シームレス出荷量 ^{*3}	50	28	28	56	106	53	27	29	55	108	+2	+2
------------------------	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	-----	----	----

*1 住金の数値は、旧住金小倉・住金直江津・住金鋼鉄和歌山含み

*2 新日鉄: 北海製鉄含み、住金: 旧住金鋼鉄和歌山含み

*3 旧新日鉄+旧住金分にて表記

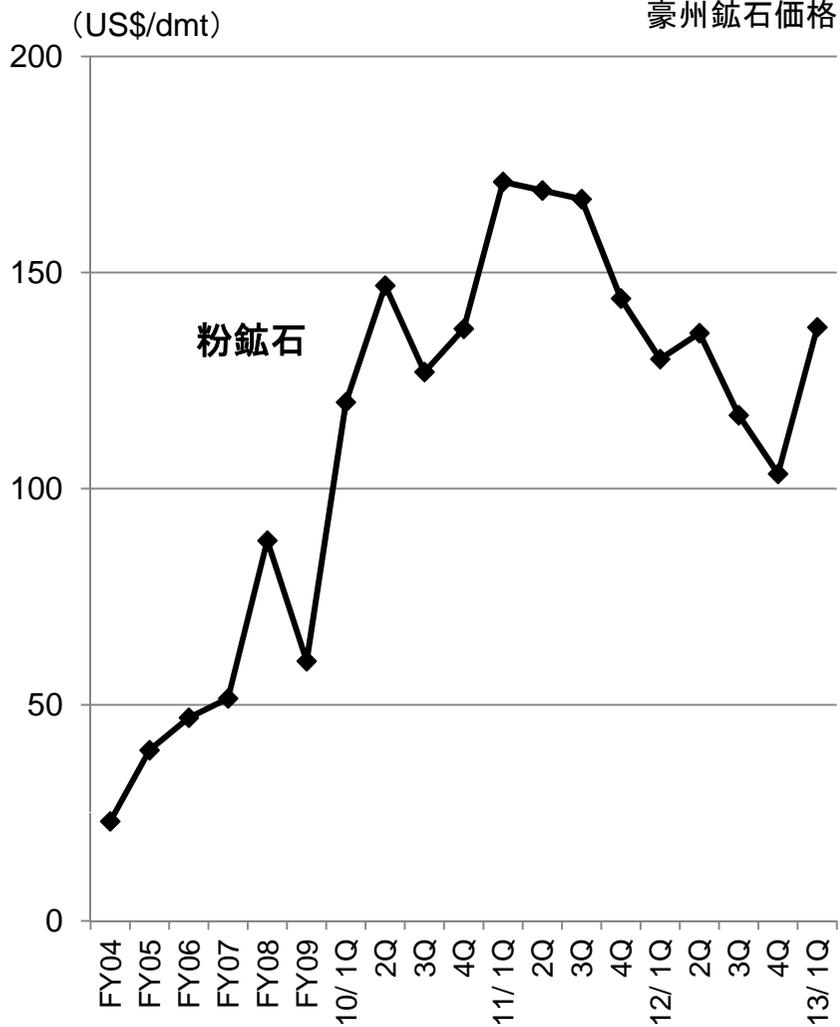
製鉄事業諸元^{*1}②

(単位:万ト)	FY11		FY12								差異	
	上期	下期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期		12上 → 12下	FY11 → FY12	
鋼材平均価格 (千円/ト)												
新日鐵住金	92.5	89.5	91.0	84.0	80.8	82.4	78.1	77.4	77.7	80.1	-4.7	-10.9
新日鐵	87.8	84.5	86.2	80.0	75.6	77.8						
住金	106.0	101.4	103.5	94.7	94.4	94.5						
鋼材輸出比率(金額ベース) (%)												
新日鐵住金	42	39	40	43	43	43	43	47	45	44	+2	+4
新日鐵	41	37	39	42	42	42						
住金	45	42	43	46	45	46						
為替レート (¥/\$)	80	78	79	81	79	80	80	90	85	82	5円安	3円安

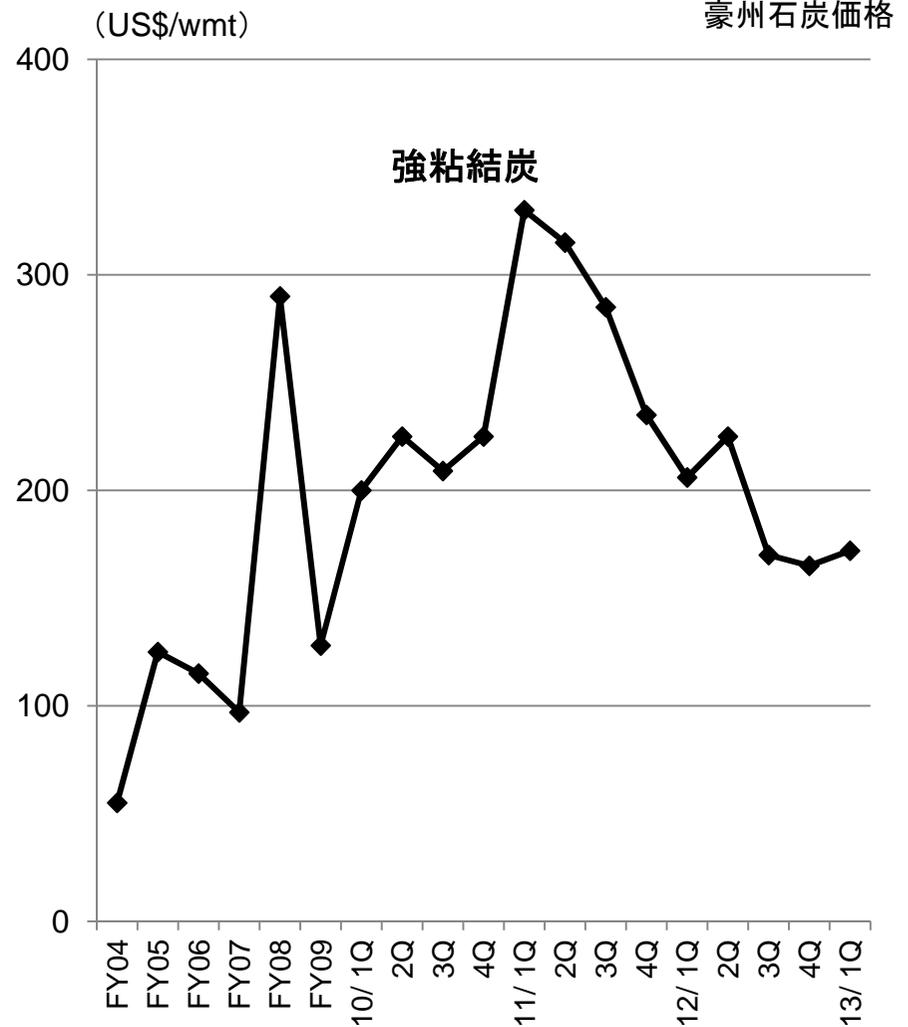
*1 住金の数値は、旧住金小倉・住金直江津・住金鋼鉄和歌山含み

鉄鉱石・原料炭 価格推移

鉄鉱石



原料炭



2) 世界及び国内の鉄鋼マーケット関連情報

世界の経済成長率推移

<2013年4月16日IMF改定値>

前回 (2013.1.23)

	CY06	CY07	CY08	CY09	CY10	CY11	CY12	CY13 見通し		CY14 見通し	
世界合計	5.1	5.2	3.0	-0.5	5.3	4.0	3.2	(3.5)	3.3	(4.1)	4.0
先進諸国	3.0	2.7	0.5	-3.4	3.2	1.6	1.2	(1.4)	1.2	(2.3)	2.2
米国	2.8	2.1	0.4	-2.6	3.0	1.8	2.2	(2.0)	1.9	(3.1)	3.0
欧州	2.8	2.7	0.6	-4.1	1.9	1.4	-0.6	(-0.2)	-0.3	(1.1)	1.1
日本	2.4	2.3	-1.2	-6.3	4.4	-0.6	2.0	(1.2)	1.6	(0.7)	1.4
新興諸国	7.9	8.3	6.1	2.7	7.5	6.4	5.1	(5.5)	5.3	(5.8)	5.7
中国	11.6	13.0	9.6	9.2	10.4	9.3	7.8	(8.2)	8.0	(8.5)	8.2
インド	9.8	9.4	7.3	6.8	10.6	7.7	4.0	(5.9)	5.7	(6.3)	6.2
ASEAN5*	5.7	6.3	4.7	1.7	7.0	4.5	6.1	(5.5)	5.9	(5.7)	5.5
ロシア	7.4	8.1	5.6	-7.8	4.3	4.3	3.4	(3.7)	3.4	(3.8)	3.8
ブラジル	3.8	5.7	5.1	-0.6	7.5	2.7	0.9	(3.5)	3.0	(3.9)	4.0

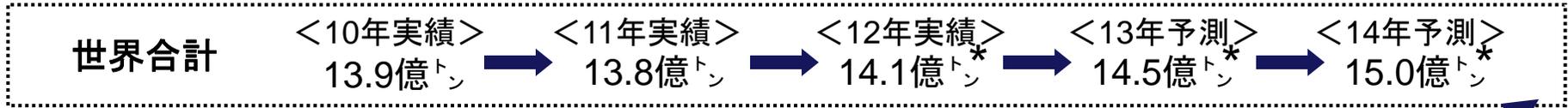
*ASEAN 5 : タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ヴェトナム

(出所: IMF)

© 2013 NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL CORPORATION All Rights Reserved.

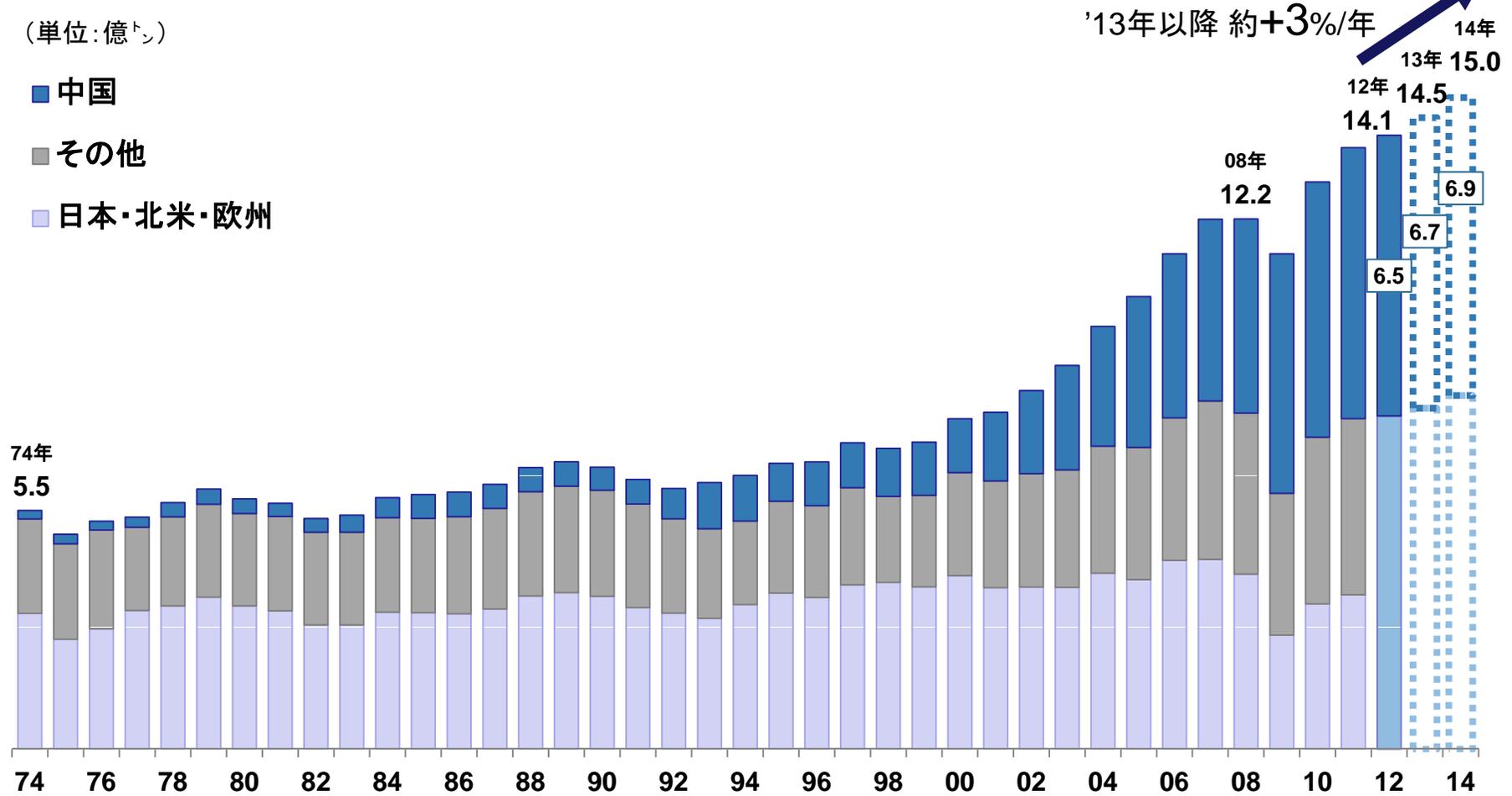
世界の鉄鋼需要推移(鋼材見掛消費)

(*12年実績/13~14年予測(13年4月WSA発表))



(単位:億トン)

- 中国
- その他
- 日本・北米・欧州



(出所: world steel association)

© 2013 NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL CORPORATION All Rights Reserved.

月別世界粗鋼生産量

(百万トン)	CY11	CY12			CY13				QoQ (12/1-3 → 13/1-3)	
		10	11	12	1	2	3	1-3		
世界計 ^{*1} (YoY)	1,529.2 +6.8%	126.1 +1.3%	121.7 +5.1%	121.3 +2.4%	1,547.8 +1.2%	124.8 +0.8%	123.3 +1.2%	135.0 +1.1%	388.8 +2.3%	+8.8
日本 (YoY)	107.6 -1.8%	8.8 -6.7%	8.5 -2.3%	8.6 +2.0%	107.2 -0.4%	8.9 +2.7%	8.3 -3.4%	9.4 +1.3%	26.6 +0.2%	+0.1
韓国 (YoY)	68.5 +16.3%	5.8 -4.9%	5.6 -2.7%	5.8 -3.4%	69.3 +1.2%	5.8 -0.4%	5.0 -8.5%	5.7 -7.0%	16.4 -5.4%	-0.9
米国	86.4	6.9	6.7	7.1	88.6	7.3	6.7	7.3	21.5	-1.8
EU27	177.7	14.2	13.5	12.0	169.4	13.5	13.4	14.6	41.2	-2.7
ロシア	68.9	6.4	5.5	5.8	70.6	5.7	5.2	6.0	17.2	-0.9
ブラジル	35.2	3.2	2.8	2.6	34.7	2.6	2.6	2.9	8.3	-0.4
インド	73.6	6.5	6.4	6.6	76.7	6.6	6.2	6.9	19.8	+0.6
中国 (YoY)	694.8 +8.8%	59.1 +6.0%	57.5 +13.7%	57.7 +7.7%	716.5 +3.1%	59.3 +4.6%	61.8 +9.8%	66.3 +6.6%	191.9 +9.1%	+16.0

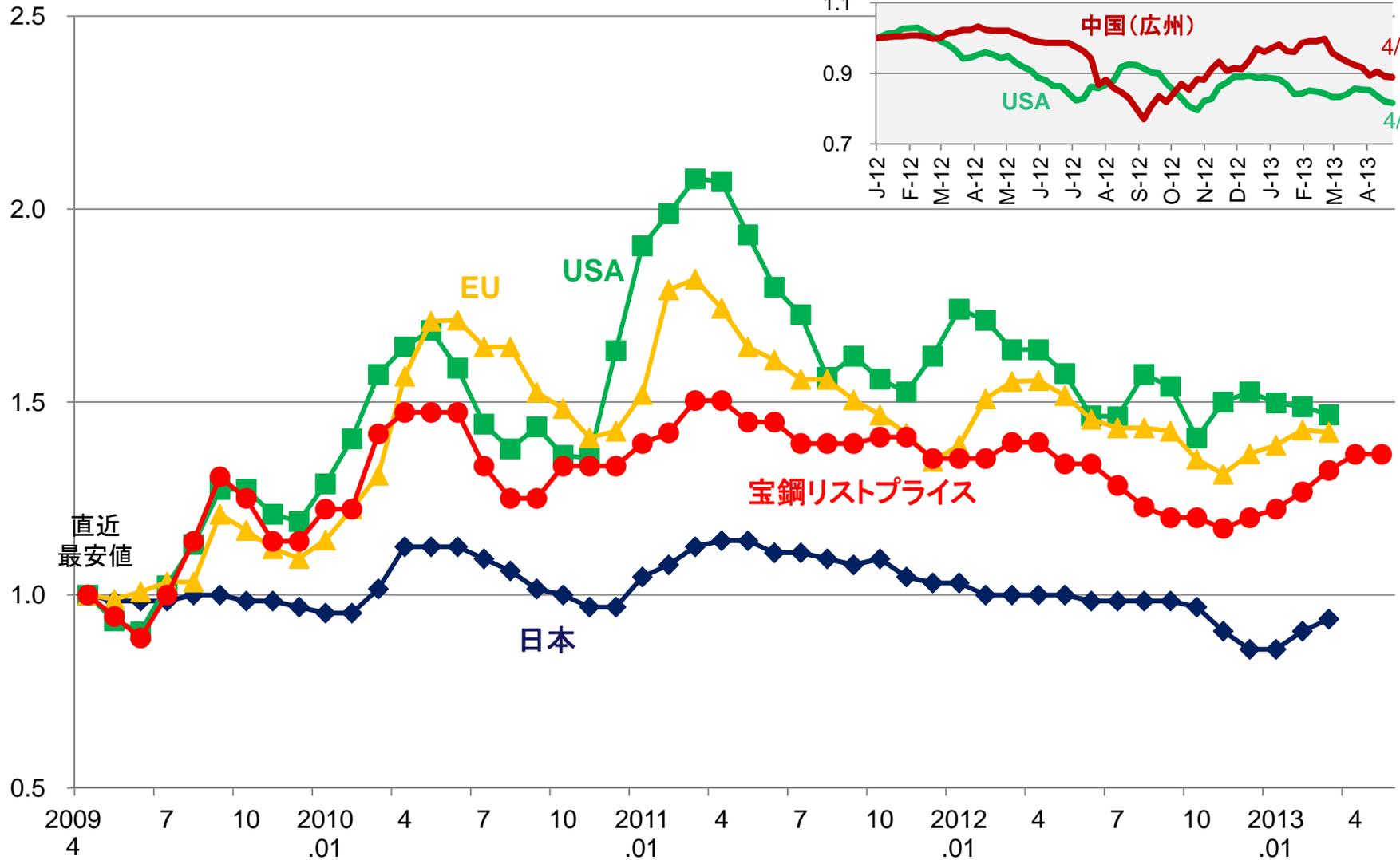
*1 世界62カ国の合計値 (出所: World Steel Association)

© 2013 NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL CORPORATION All Rights Reserved.

世界各国ホットコイル市況推移

(2009年4月各現地通貨ベースホットコイル価格=1.0)

cf1) 直近の米国・中国(広州)市況 (2012年1月起点)

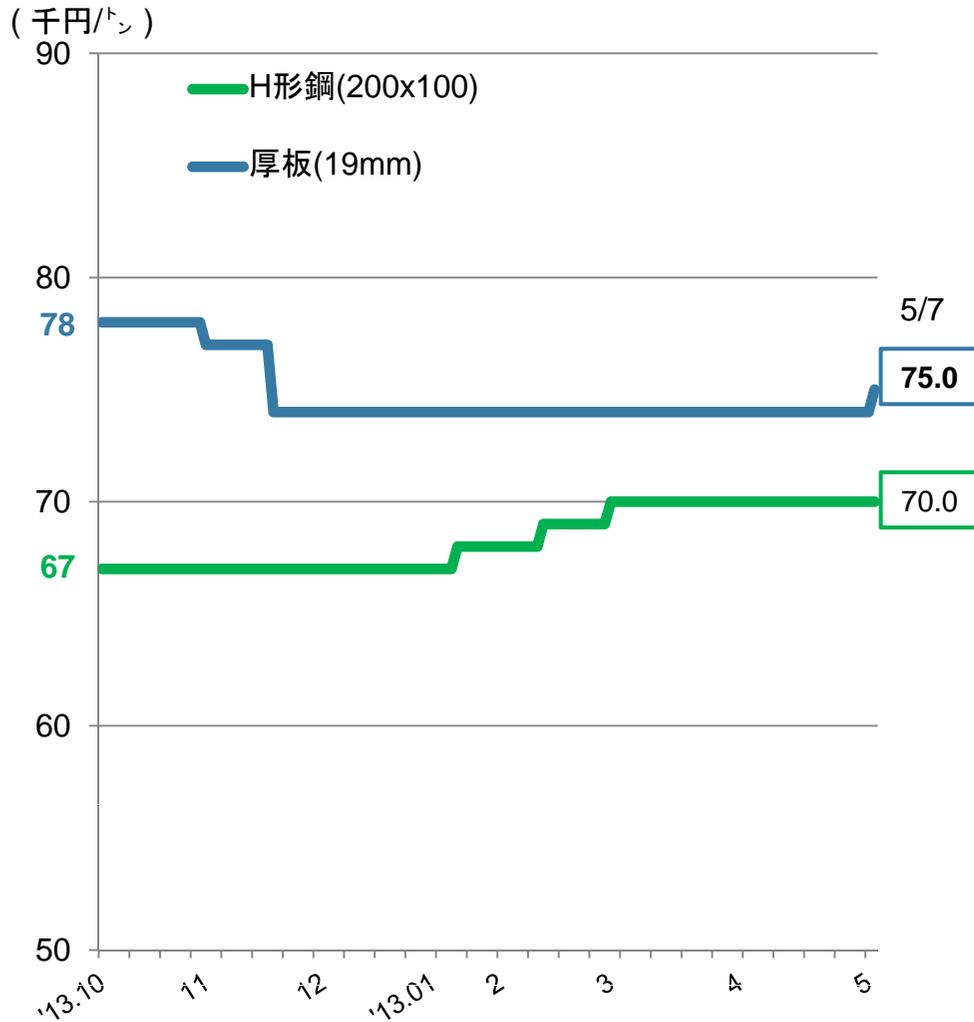


(出所: 日本鉄鋼連盟等データより当社作成)

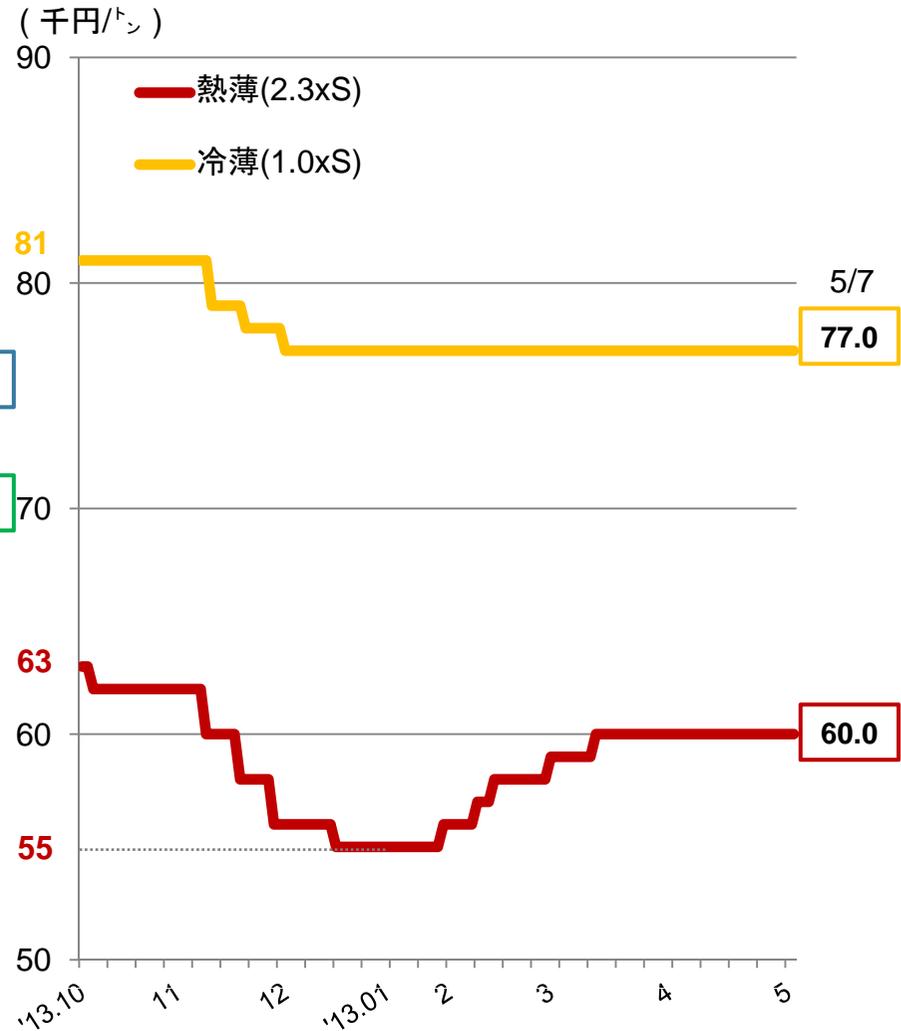
© 2013 NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL CORPORATION All Rights Reserved.

国内鋼材市況（店頭価格）

厚板・H形鋼



熱延・冷延

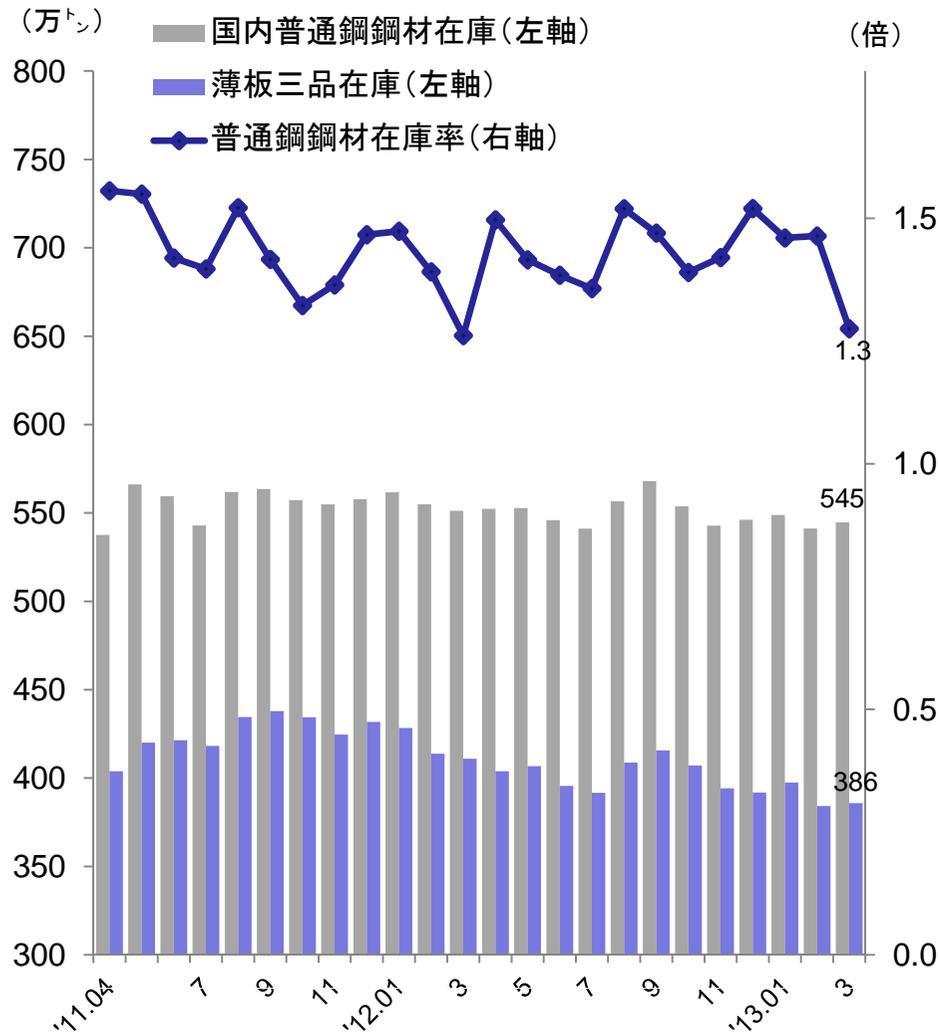


(出所: 鉄鋼新聞・月末・東京安値、問屋間仲間相場価格)

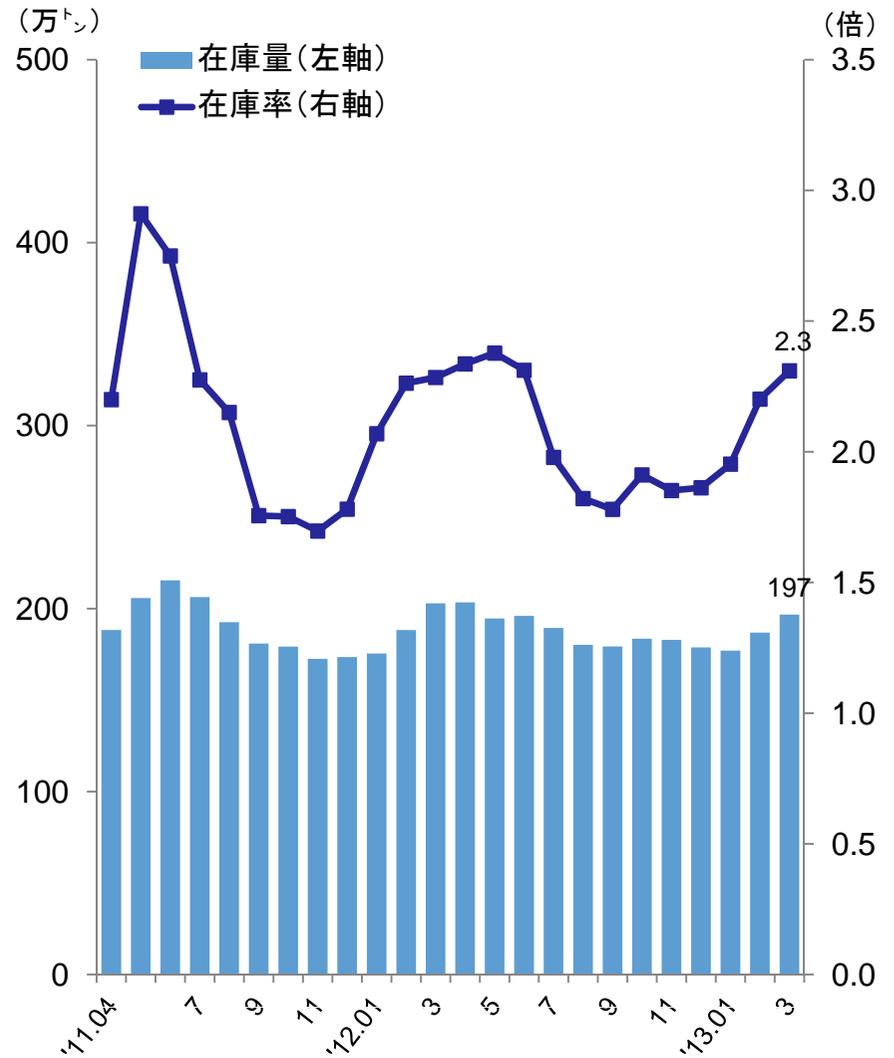
© 2013 NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL CORPORATION All Rights Reserved.

国内鋼材在庫推移

普通鋼鋼材・薄板三品在庫



ときわ会 (H形鋼) 在庫



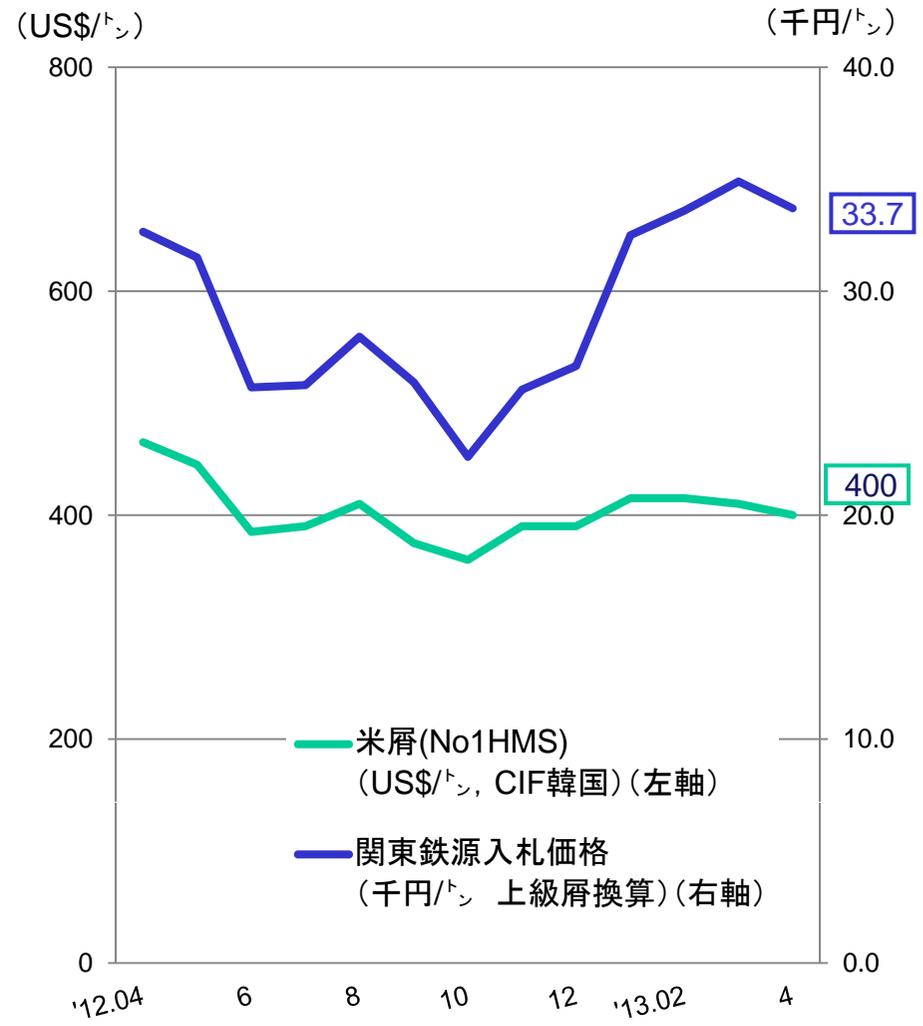
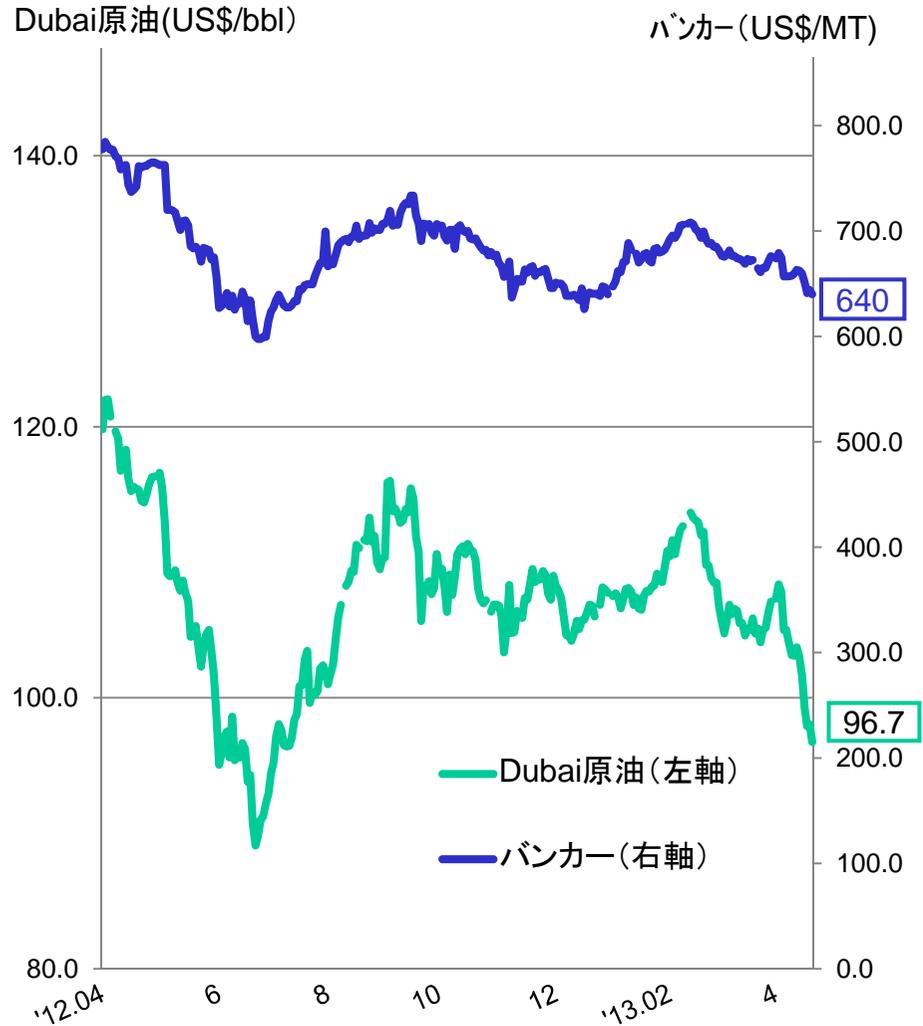
(出所: 日本鉄鋼連盟)

© 2013 NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL CORPORATION All Rights Reserved.

原料市況 <原油・スクラップ>

原油

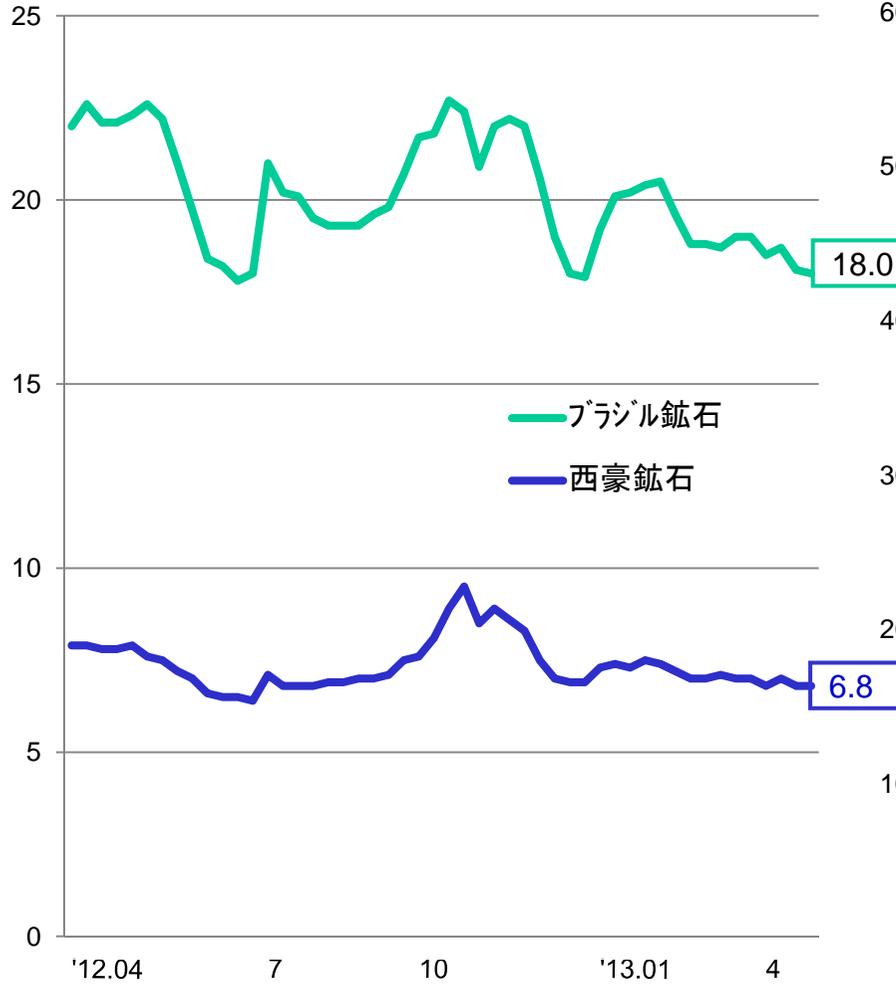
スクラップ



原料市況 <フレート・型鉄>

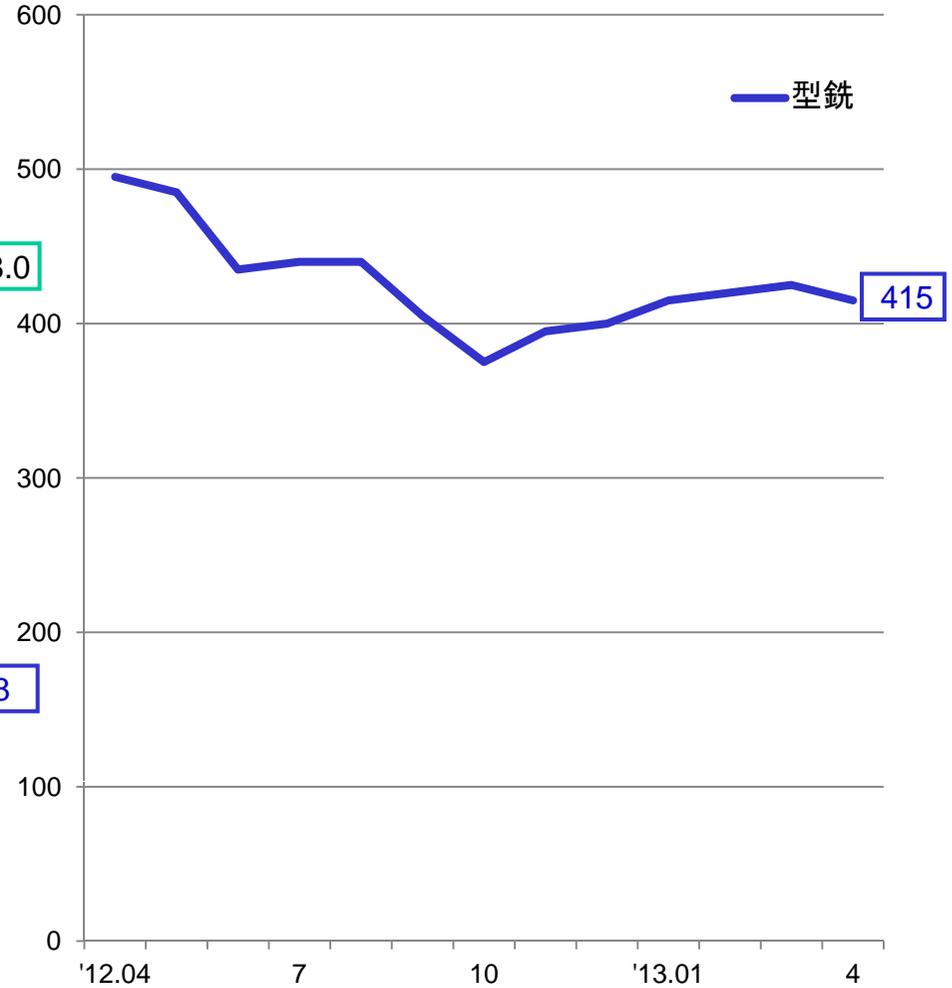
フレート

(US\$/WMT, ケープサイズ 170千t船型)

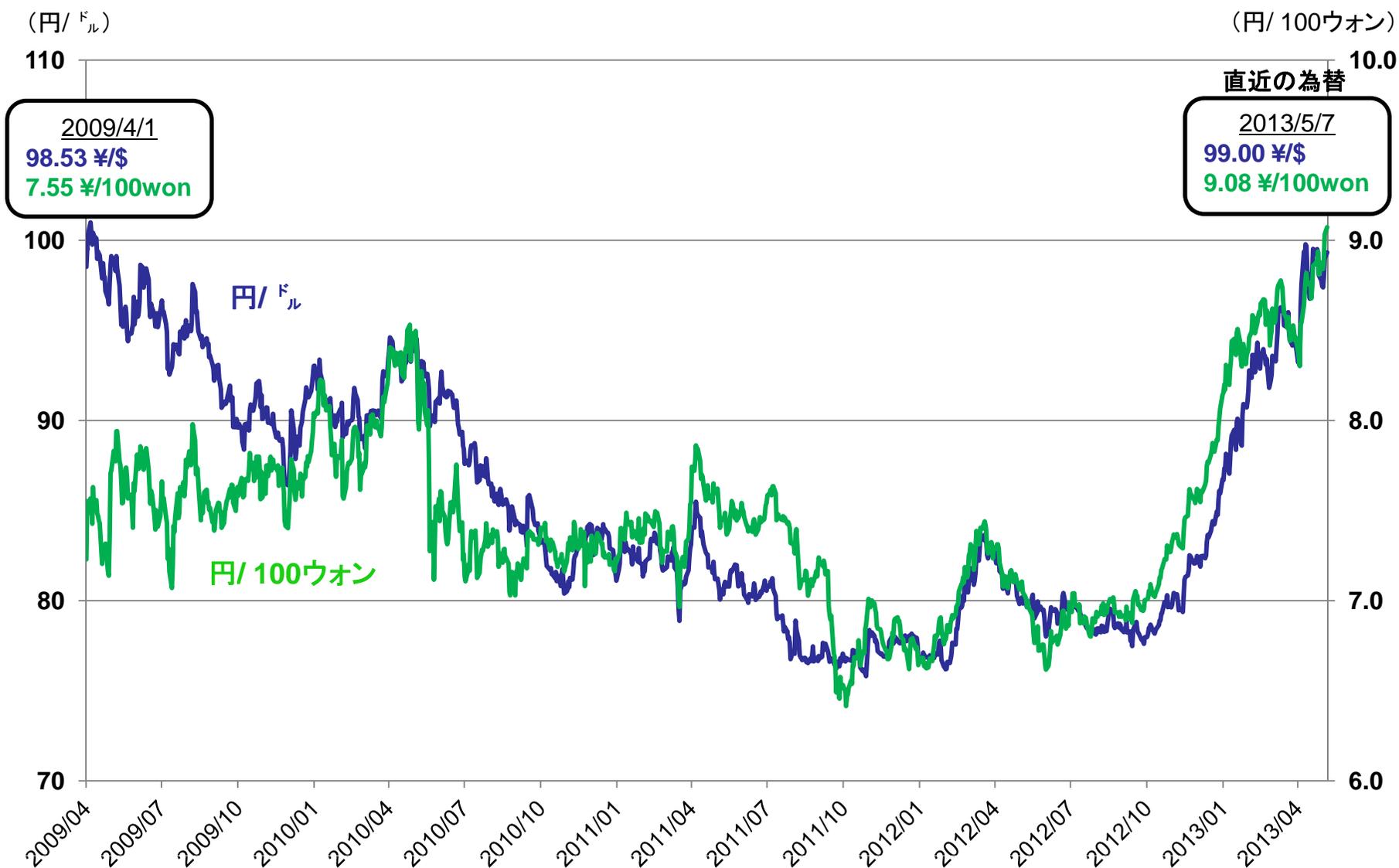


型鉄

(US\$/T, CIF 韓国)



足元の為替推移(円/ドル・円/ウォン)



3) 中期経営計画 (2013.3.13発表)

2015年までに世界最高水準の競争力を実現
最低目標 ROS 5% 程度、更に ROS 10% を目指す。

技術先進性の発揮

世界最高水準の
コスト競争力の実現

最適生産体制の構築

グローバル戦略の推進

製鉄グループ会社の
体質強化

資産圧縮と設備投資・事業投資の基本方針

財務体質改善 と 成長投資 を両立させます。

- 現状 早期に

■ D/E 1.2 → 1.0 → 国際A格水準(0.8程度)
- 資産圧縮 3,000億円程度 (12/下期から3年程度)
- 設備投資 償却費の80%程度

2010~2012年度平均

設備投資 4,000億円
償却費 3,800億円
- 成長に向けた戦略投資 年間1,000億円程度

3年目途に統合効果 年率2,000億円以上を実現します。

技術・研究開発成果の 融合によるコストダウン	<ul style="list-style-type: none"> ・低品位原料・上工程操業条件・圧延能率 ・高機能商品開発・プロセス技術開発 ・労働生産性向上 	600 億円程度
最適生産体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・設備休止による固定費適正化・低コスト操業 ・製造ライン毎の最適分担、高機能商品拡大 ・製鉄所間連携(原料・エネルギー・保全等) ・重複投資回避 	600 億円程度
購買コストの削減	<ul style="list-style-type: none"> ・原料輸送効率向上 ・資機材 集中購買等 	300 億円程度
本社部門のスリム化	<ul style="list-style-type: none"> ・本社、国内外支店の統合と効率化 ・一般管理費、システム開発費の削減 	300 億円程度
グループ会社 統合再編と連携	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会社の統合再編 ・グループ内での連携拡大 (物流、加工、設備、分析等) 	200 億円程度
合計 2,000 億円以上		

設備休止による固定費適正化と一貫高生産性・低コスト操業実現

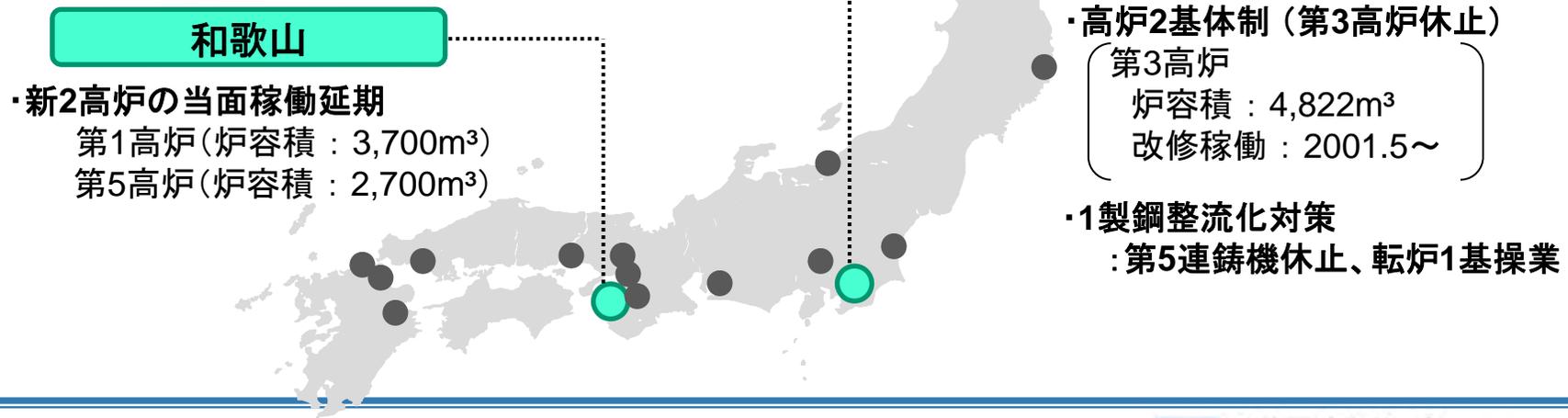
上工程

(君 津)・高炉2基体制への移行(第3高炉休止) ・1製鋼整流化対策 第5連鑄機休止 転炉1基操業への移行 (和歌山)・新2高炉の稼働を当面延期 (第1高炉 + 第5高炉体制の継続)	(2015年度末目途)
	(2014/上期目途) (2016/1Q目途)

設備数	
高炉	14
転炉	32
連続鑄造	30

→

13	(FY15末)
31	(FY16/1Q)
29	(FY14上期)

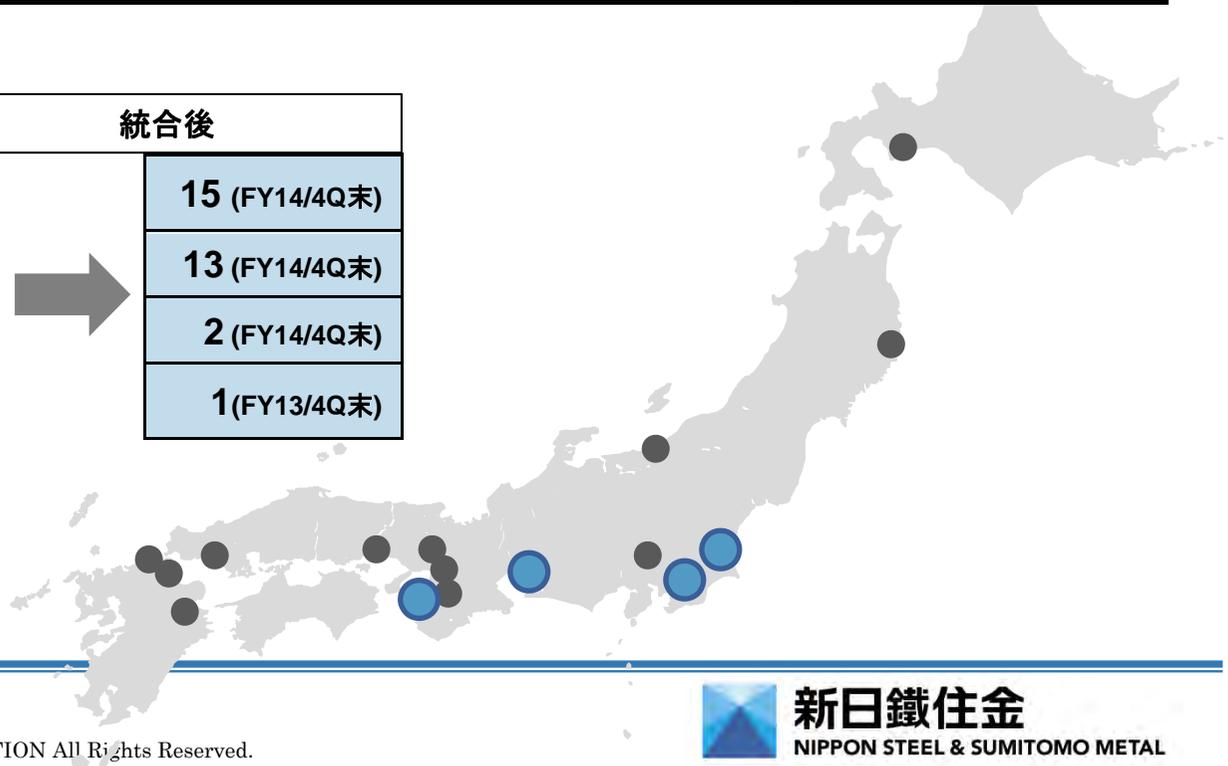


設備休止による固定費適正化と一貫高生産性・低コスト操業実現

下工程

薄板 (休止)	(鹿島) No.2酸洗, No.1冷延, No.1連続焼鈍, バッチ焼鈍, No.1CGL, No.2EGL	(2014/4Q末日途)
	(和歌山) No.3酸洗, No.1冷延, CGL, 連続焼鈍(電磁)	(2014/1Q末日途)
	(名古屋) No.4CGL EGL	(2013/1Q末日途)
	(君津) No.1連続焼鈍	(2014/4Q末日途)
厚板	(鹿島)(君津) 圧延シフトダウン	(2013/2Q 日途)
鋼管	(君津) 鍛接鋼管 (休止)	(2013/4Q末日途)

設備数	統合前		統合後	
冷延	17	17	15 (FY14/4Q末)	
CGL	18	16	13 (FY14/4Q末)	
EGL	7	4	2 (FY14/4Q末)	
鍛接鋼管	2	2	1 (FY13/4Q末)	



本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。